

児童生徒が1人1台端末を 活用する授業とは

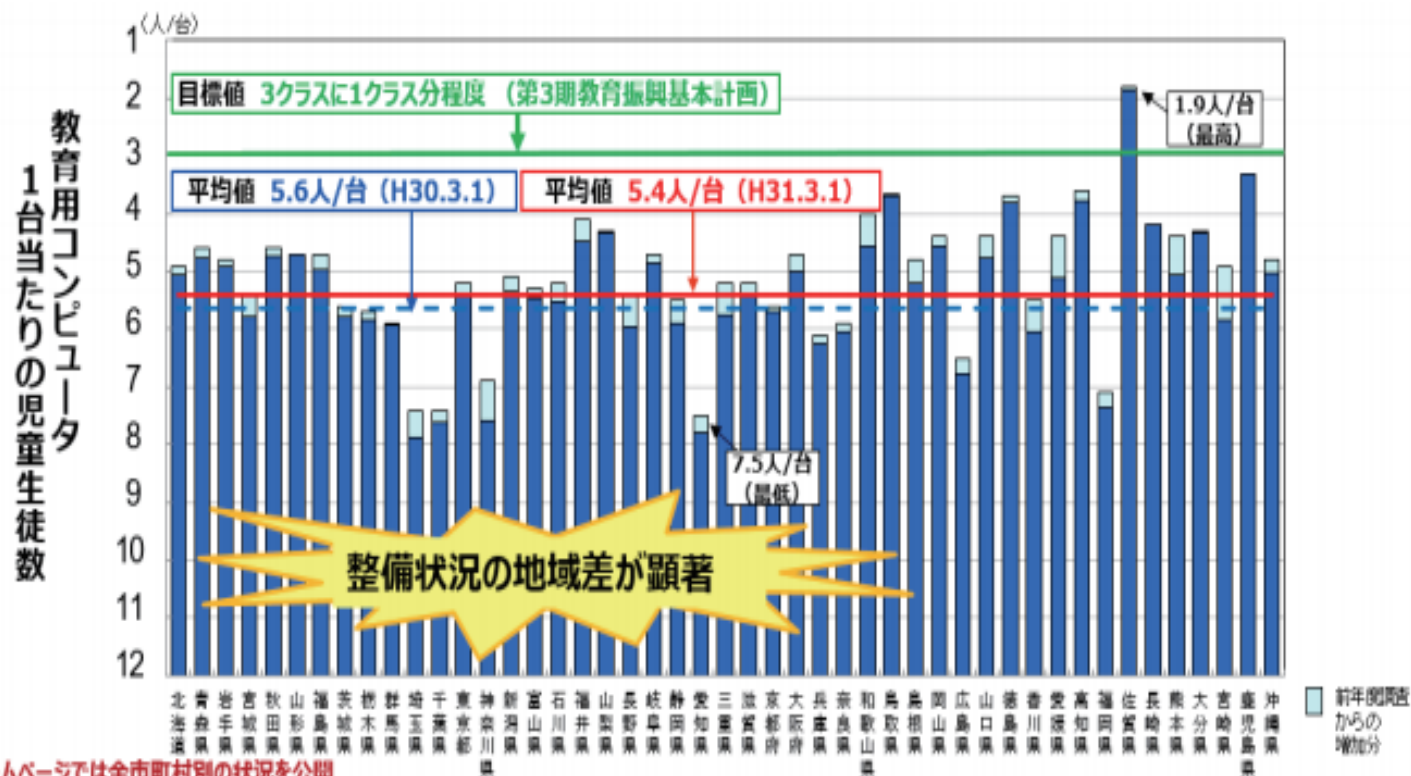
出典

- ◆ 文部科学省「GIGAスクール構想の実現へ(令和2年)」
- ◆ 滋賀県教育委員会「ICT活用ガイドブック～1人1台端末による学びの質の向上に向けて～(令和3年1月)」

1人1台の端末が、
なぜ、導入されたのか

1 学校のICT環境整備状況は脆弱かつ危機的な状況

- ✓ 学校のICT環境整備状況は脆弱であるとともに、地域間での整備状況の格差が大きい危機的な状況



ホームページでは全市町村別の状況を公開
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1420641.htm

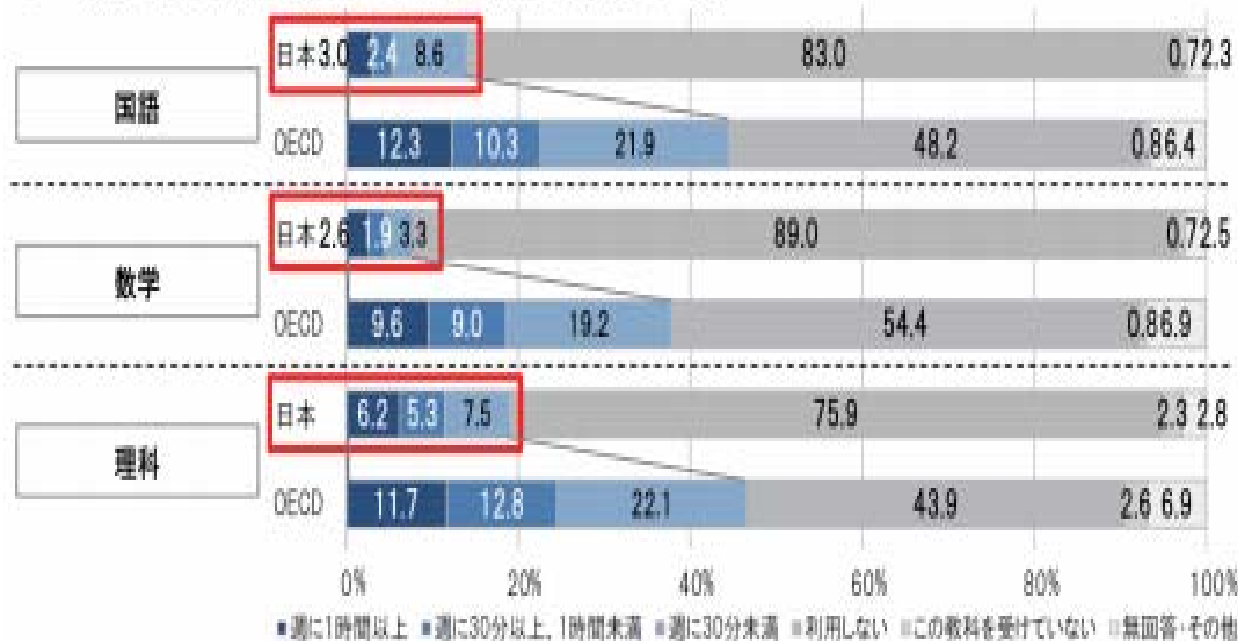
(出典：学校における教育の情報化の実態等に関する調査(確定値) (平成31年3月現在))

文部科学省「GIGAスクール構想の実現へ(令和2年)」より

2 学校におけるICT利活用は世界から後塵を拝している状況

✓ 学校の授業におけるデジタル機器の使用時間はOECD加盟国で最下位

● 1週間のうち、教室の授業でデジタル機器を利用する時間



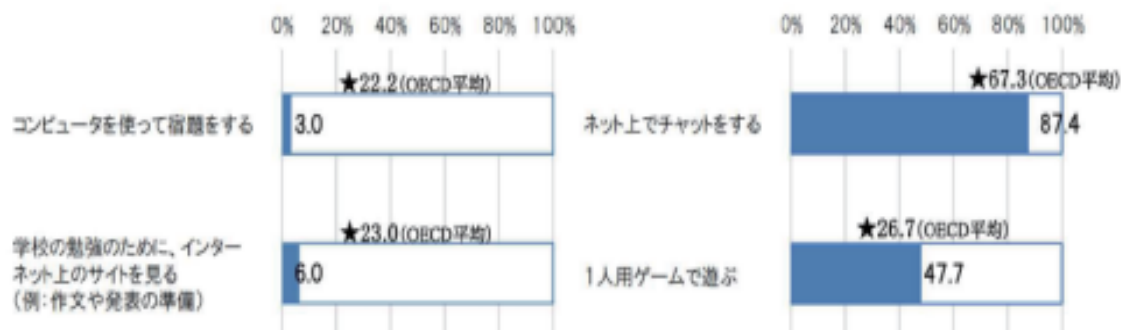
(出典：OECD生徒の学習到達度調査 (PISA2018) 「ICT活用調査」)

文部科学省「GIGAスクール構想の実現へ(令和2年)」より

3 子供の学校外でのICT使用は「学習外」に比重

- ✓ 学校外でのICT利用は、学習面ではOECD平均以下、学習外ではOECD平均以上

● 学校外での平日のデジタル機器の利用状況 (青色帯は日本の、★はOECD平均の「毎日」「ほぼ毎日」の合計)



(出典: OECD生徒の学習到達度調査 (PISA2018) 「ICT活用調査」)

GIGAスクール構想

- ✓ 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する
- ✓ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す

文部科学省「GIGAスクール構想の実現へ(令和2年)」より

1人1台端末のよさとは

これまでの教育実践の蓄積

一斉学習

・教師が電子黒板等で説明し、子どもたちの興味関心意欲を高めることはできる。



個別学習

・全員が同時に同じ内容を学習する。
(子ども一人ひとりの理解度に応じた学びは困難)



協働学習

・グループやペアでの活動を行うことで、他者の意見を参考にする。
(積極的な子どもの活動が中心となり、意見交流も限定的)



学びの
深化

×
ICTの活用

学びの
転換

「1人1台端末」のある環境

学習活動の一層の充実
主体的・対話的で深い学びの視点からの
授業改善

一斉学習

・教師は授業中でも子ども一人ひとりの反応を把握

→子ども一人ひとりの反応を踏まえたきめ細やかな指導等、双方向型の授業展開が可能に



個別学習

・子ども一人ひとりが同時に自分に合った内容を学習
・それぞれの学習履歴が自動的に記録

→子ども一人ひとりの教育的ニーズ・理解度に応じた個別学習や個に応じた指導が可能に



協働学習

・子ども一人ひとりが記事や動画等を集め、独自の視点で情報を編集し、それぞれの考えを即時に共有し、共同編集

→全ての子どもが情報の編集を経験しつつ、多様な意見にも即時にふれることが可能に



県教育委員会「ICT活用ガイドブック～1人1台端末による学びの質の向上に向けて～」より

ICTを活用した授業改善

一斉学習

▶ A1: 教員による教材の提示



画像の拡大提示や書き込み、音声や動画などの活用

▶ A2: 資料等の端末への配付



先生が作った資料やプリントを子どもそれぞれの端末に配付

▶ A3: 課題の提出・比較



課題の提出、全体に提示・比較

資料などが教室のスクリーンや大型テレビだけでなく、個人の端末でも見ることができる。また、書き込みができるので、めあてや課題を明確につかみ、学習内容をまとめたり、振り返ったりすることができる。

実演でやり方を示す



優先の方向と運び方は…

授業内容を振り返る



昨日はこんなことをやったね。



コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示することで、児童生徒の興味・関心を高めたり、課題を明確につかめたり、学習内容を的確にまとめたりできるように指導する。

県教育委員会「ICT活用ガイドブック～1人1台端末による学びの質の向上に向けて～」より

これまでの教育実践の蓄積

一斉学習

・教師が電子黒板等で説明し、子どもたちの興味関心意欲を高めることはできる。



個別学習

・全員が同時に同じ内容を学習する。
(子ども一人ひとりの理解度に応じた学びは困難)



協働学習

・グループやペアでの活動を行うことで、他者の意見を参考にする。
(積極的な子どもの活動が中心となり、意見交流も限定的)



学びの
深化

×
ICTの活用

学びの
転換

「1人1台端末」のある環境

学習活動の一層の充実
主体的・対話的で深い学びの視点からの
授業改善

一斉学習

・教師は授業中でも子ども一人ひとりの反応を把握

→子ども一人ひとりの反応を踏まえたきめ細やかな指導等、双方向型の授業展開が可能に



個別学習

・子ども一人ひとりが同時に自分に合った内容を学習
・それぞれの学習履歴が自動的に記録

→子ども一人ひとりの教育的ニーズ・理解度に応じた個別学習や個に応じた指導が可能に



協働学習

・子ども一人ひとりが記事や動画等を集め、独自の視点で情報を編集し、それぞれの考えを即時に共有し、共同編集

→全ての子どもが情報の編集を経験しつつ、多様な意見にも即時にふれることが可能に



ICTを活用した授業改善



児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。

県教育委員会「ICT活用ガイドブック～1人1台端末による学びの質の向上に向けて～」より

これまでの教育実践の蓄積

一斉学習

・教師が電子黒板等で説明し、子どもたちの興味関心意欲を高めることはできる。



個別学習

・全員が同時に同じ内容を学習する。
(子ども一人ひとりの理解度に応じた学びは困難)



協働学習

・グループやペアでの活動を行うことで、他者の意見を参考にする。
(積極的な子どもの活動が中心となり、意見交流も限定的)



学びの
深化



学びの
転換

ICTの活用

「1人1台端末」のある環境

学習活動の一層の充実
主体的・対話的で深い学びの視点からの
授業改善

一斉学習

・教師は授業中でも子ども一人ひとりの反応を把握

→子ども一人ひとりの反応を踏まえたきめ細やかな指導等、双方向型の授業展開が可能に



個別学習

・子ども一人ひとりが同時に自分に合った内容を学習
・それぞれの学習履歴が自動的に記録

→子ども一人ひとりの教育的ニーズ・理解度に応じた個別学習や個に応じた指導が可能に



協働学習

・子ども一人ひとりが記事や動画等を集め、独自の視点で情報を編集し、それぞれの考えを即時に共有し、共同編集

→全ての子どもが情報の編集を経験しつつ、多様な意見にも即時にふれることが可能に



ICTを活用した授業改善

協働学習

グループで話し合っ
て考えをまとめたり、
協働してレポート・
資料・作品などを制作
したりするなどの学習
の際に、コンピュータや
ソフトウェアなどを効
率的に活用できる。

互いの意見・考え方・
作品などを共有したり、
比較検討したりするた
めに、コンピュータや提
示装置などを活用して
意見などを効果的に提
示できる。

▶ C1：発表や話し合い



グループや学級全体での
発表・話し合い

▶ C2：協働での意見整理



複数の意見・考えを
議論して整理

▶ C3：協働制作



グループでの分担、協働による
作品の制作

▶ C4：学校の壁を越えた学習



遠隔地や海外の学校等との
交流授業



児童生徒が文章作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。

県教育委員会「ICT活用ガイドブック～1人1台端末による学びの質の向上に向けて～」より

1人1台端末の
こんな使い方から始めよう

○教材提示・話し合い・振り返りに活用

一斉学習A1

<デジタル教材、プレゼンテーションソフトなど>

協働学習C1

- ・子どもたちの興味・関心を高めたり、学習内容を的確にまとめたり、全体での話し合いや振り返りをしたりすることができる。



○資料等の端末への配付に活用

一斉学習A2

<授業支援ソフトなど>

- ・資料やプリントを子どもそれぞれの端末に配付でき、手元で見ることができる。

○意見交流やプレゼンテーションに活用

協働学習C1

<文章作成ソフト、プレゼンテーションソフトなど>

- ・子ども一人ひとりが自分自身の考えをまとめて共有できる。
- ・グループや学級全体での発表や話し合いができる。



○調べ学習で活用

個別学習B2

<検索サイトなど>

- ・子ども一人ひとりが情報を検索し、必要な記事や動画等を収集・整理できる。

○教科書にある二次元コードの読み込みに活用

個別学習B1

<カメラソフトなど>

- ・各教科等の教科書に記載の二次元コードを読み込むと、動画や音声、問題等を視聴できる。





○一人ひとりの学習状況に応じた個別学習での活用

<AIドリル、デジタル教材など>

個別学習B1

- ・子ども一人ひとりの教育的ニーズや理解に応じた個別学習、個に応じた指導ができる。
- ・特別な支援を必要とするなど様々な特徴をもった子どもたちに対して、よりきめ細やかな対応を行うことができる。

○写真や動画などの撮影・記録・あとで見返しに活用

個別学習B1

<カメラソフトなど>

個別学習B2

- ・カメラ機能を活用して、学習対象や学習活動を撮影・記録したり、あとで見返したりするなどの活用ができる。



※最初から全ての場面での活用を目指すのではなく、**子どもの発達段階に応じて、徐々に活用の幅を広げていく**必要があります。例えば、小学校低学年では文字を手で書くことなどを優先し、端末の活用は、写真撮影や簡単な画像の編集、動画視聴など基本的なところから始めることが考えられます。また、中学年からは文字入力、表やグラフの作成およびインターネット検索、高学年になると、マルチメディアを用いた資料や作品の制作を行うなど、段階的にレベルアップしていくことが、ICT活用のポイントになります。

県教育委員会「ICT活用ガイドブック～1人1台端末による学びの質の向上に向けて～」より

○課題の提出・比較

一斉学習A3

<授業支援ソフトなど>

・子どもの課題等を回収し、全体に提示し比較することができる。



○思考を深める学習での活用

個別学習B3

<デジタル教材など>

・作図やグラフ作成が簡単にできることにより、考えを深める学習ができる。

○協働での意見交流での活用

協働学習C2

<授業支援ソフトなど>

・グループ内での複数の意見・考えを共有し、話し合いを通じて思考を深めながら協働で意見整理を行うことができる。



○協働制作での活用

協働学習C3

<授業支援ソフト、プレゼンテーションソフト、文章作成ソフトなど>

・写真・動画等を用いた資料・作品をグループで分担したり、協働で作業しながら制作できる。

まとめ

- 児童生徒の情報活用能力の育成や教科のねらいに迫るためのICT活用である。
- ICTを活用して、子どもの興味・関心を高め、効率的な学習（画像や動画を利用し、より分かりやすく）を目指しましょう。
- ICTを活用することで、子どもの授業への積極的な参加を促すこと（個人の意見を発言〔発信〕しやすく）ができます。
- 個別最適な学びや（習熟度に応じてきめ細かく指導・支援）協働的な学び（意見・考え方・作品を共有、比較検討、レポート・資料・作品の制作）の良さを取り入れましょう。